

P3-2 ガス壊疽の臨床的検討

～とくに予後関連因子および高気圧酸素治療の問題点

大塚洋幸¹⁾ 守田誠司¹⁾ 飯塚進一¹⁾ 中川儀英¹⁾
山本五十年¹⁾ 猪口貞樹¹⁾ 檜山英巳²⁾
小森恵子²⁾

- (1) 東海大学医学部専門診療学系救命救急医学)
(2) 東海大学医学部附属病院診療技術部

【目的】 今回、ガス壊疽の臨床像、予後関連因子および治療法につき検討し、HBOの問題点を明らかにした。
【対象と方法】 過去10年間に入院したガス壊疽33例を対象として、臨床的な特徴について検討した。また、対象を生存25例と死亡8例、HBO群20例と非HBO群13例に分け、予後関連因子およびHBOの予後効果について検討した。**【結果】**①基礎疾患：糖尿病25例、肝硬変3例等。②外傷性2例・非外傷性31例、初発感染巣：肛門周囲膿瘍5例、歯科治療中3例、尿路感染3例、作業中の外傷2例。③平均潜伏期間13.2日。来院時ショック症状を呈した症例：10例。感染部位：四肢17例、鼠径・殿部7例、頸部3例、他6例。来院時臓器障害12例。④主な検出菌：Peptostreptococcus 10例、 γ haemolytic streptococcus 8例、 α haemolytic streptococcus 6例、E.coli. 4例、Staphylococcus aureus 4例で、クロスリディウム性のガス壊疽は3例のみであった。⑤生存群と死亡群の比較では、潜伏期間、末梢血血小板数、血清CK値、乳酸値、SOFAスコアが有意の差があった。⑥死亡率は、HBO群10% (2/20)、非HBO群46.2% (6/13)とHBO群が有意に低かったが、重症度は非HBO群の方が高かった。⑦HBO施行回数は 7.05 ± 7.21 、HBOによる合併症は耳痛4例、高血圧1例でHBO中断例は10% (2/20)であった。⑧HBO非施行の理由は、呼吸循環動態の不安定、患者によるHBOの拒否等であった。
【結論】 ①ガス壊疽の90%以上は非外傷性で非クロスリディウム性の筋壊死であり、糖尿病等の基礎疾患を有するものが多かった。②潜伏期間、末梢血血小板数、血清CK値、乳酸値、SOFAスコアが予後に関連していた。③呼吸循環動態が不安定な重篤例はHBOを実施できない症例が多く、HBO中の安全な集中治療が今後の課題となった。

P3-3 難治性陰茎疾患に対する高気圧酸素を用いた新しい治療

中田瑛浩¹⁾ 篠田雄一²⁾ 久保田洋子³⁾
中島康代¹⁾ 吉田泰行⁴⁾

- (1) 四街道徳洲会病院)
(2) 千葉西総合病院
(3) 山形県立置賜総合病院
(4) 千葉徳洲会病院

【目的】 陰茎には1対の陰茎海綿体と1個の尿道海綿体がある。左右の陰茎海綿体は血液の交流がある。両海綿体は強靱な白膜で覆われその外側にBuck筋膜がある。その血流の異常で持続勃起症が生じたり感染が拡大すると生命を脅かすフルニエ壊疽が突発する。これらの重篤な病態を改善する方法は殆ど進歩していない。演者らは高気圧酸素 (HBO) を応用した治療の有用性をこれらの病態に試みた。他に陰茎疾患にたいするHBO治療の経験を追加する。

【対象患者及び治療方法】 持続勃起症患者1例フルニエ壊疽患者1例嵌頓包茎2例尿道下裂手術後の2例である。HBOは2 ATAにて施行した。

【結果】 持続勃起症患者は病状発症の23時間後に当外来を受診した。陰茎海綿体血液ガス分析ドップラー超音波検索などより静脈閉塞性持続勃起症と診断した。ただちに片側海面体内より静脈血を吸引し洗浄したが勃起は不変であった。HBO治療は90分/日 x 7日間施行した。HBOの第2日より勃起は軽減し始めた。治療終了後にほぼ正常となった。以後再発はなくEDも生じていない。フルニエ壊疽患者は発熱陰部腫脹CPK高値にて入院した。3回のBuck筋膜内の化膿組織除去 b FGF投与とともにHBO治療を行い救命できた。嵌頓包茎は軽度な2例にHBO治療し外科的処置は回避できた。尿道下裂の術後浮腫軽減にHBOは有効であった。

【結語】 HBO単独あるいは他の治療と併用し難治性陰茎疾患の治療に有効と推測された。